

学びに自分の意志をもつ子

重点
つなぐ学び

札幌市立緑丘小学校 第24回教育実践研究会

第Ⅰ期 9月18日(金)

社会	3-3	平 侑真	「工場ではたらく人と仕事」
	4-5	谷川 充	「地震にそなえるまちづくり」
	5-2	奥泉 峻	「日本の工業生産と今と未来」
算数	1-3	池野 翔太	「たしざん」
	4-2	佐野 楓河	「垂直、平行と四角形」
	2-1	三浦 聡一郎	「三角形と四角形」
図画工作	1-2	渡辺 恵美子	「スルスルビューン」
	5-1	北野 信次郎	「水から発見 ここきれい！」
体育	4-1	清橋 隆之介	「スペーストライアングルゲーム」
	6-1	齋藤 未来	「リズム高跳び～みどりっ子スターズ～」
外国語	4-3	和田 誉	「Unit7 What do you want?」
	専科(6年)	太田 麻子	「Unit5 Where is it from?」
道徳	2-2	高橋 周	「おかあさんとのやくそく」
	4-4	酒井 利来	「お母さんのせいきゅう書」
	5-3	中野 梨紗子	「セルフジャッジ」

第Ⅱ期 11月6日(金)

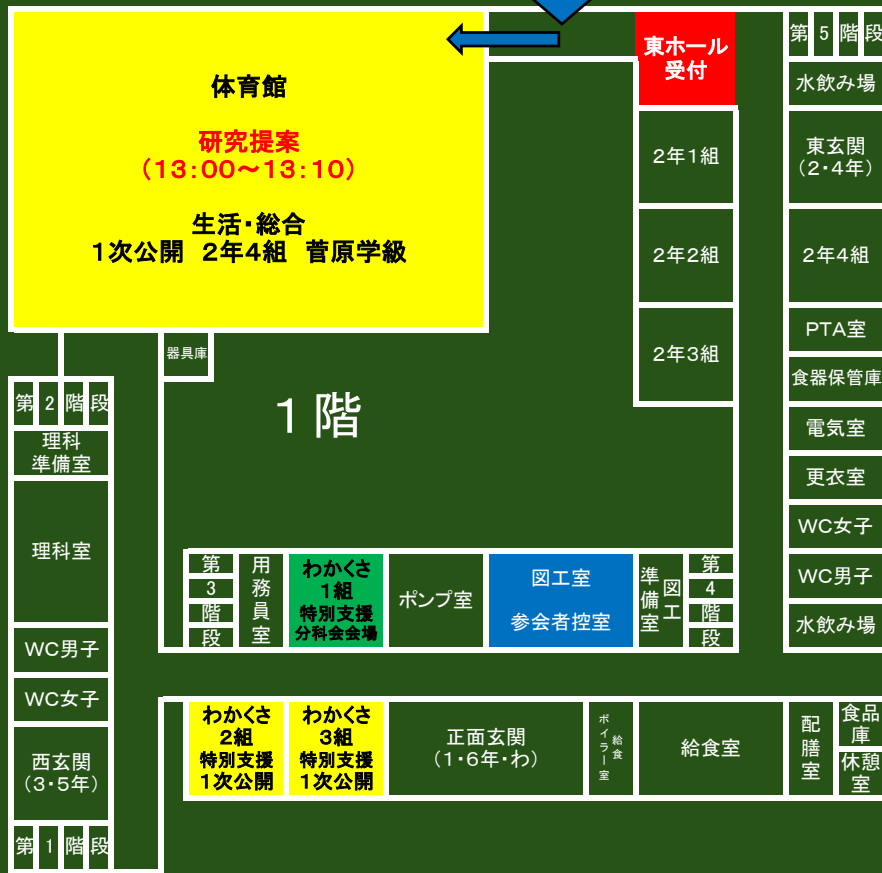
国語	5-4	羅津 日向子	「固有種が教えてくれること」
	6-4	坂野 由美子	「『考える』とは」
	5-5	中島 幹太	「想像力のスイッチを入れよう」
理科	3-1	池田 拓樹	「じしゃくのせいしつ」
	3-4	磯川 祐人	「じしゃくのせいしつ」
生活・総合	2-4	菅原 裕子	「作ってためして」
	6-3	森下 恭時	「Dreams come true.」
音楽	1-1	二木 愛花	「せんりつでよびかけあおう」
	2-3	工藤 壮生	「いろいろながっきの音をさがそう」
特別活動	3-2	黒田 健太	「3-2チャレンジ集会をしよう」
	6-2	千葉 朋輝	「『響』学習発表会をつくろう！」
特別支援	わかくさ	木村 裕昭、石川 富美、森 達也、 篠原 唯、岩井 千波、奥山 陽子	生活単元学習/自立活動「わかくさまつりをしよう！」



グラウンド

入口

札幌市立緑丘小学校 第24回教育実践研究会 Ⅱ期 会場図



・別紙もしくは下のQRコードから、研究会のアンケートの御協力をよろしくお願いいたします。



10年前・10年後

校長 三戸部 文彦

第24回緑丘小学校教育実践研究会に御来校いただき、感謝申し上げます。

本校教職員は、この日に向けて懸命に授業づくりに励んできました。中には、研究会で授業を公開するのはこれが初めて、という教職員も複数ありますが、彼らが皆同じ土俵に立ち、自分の考えをもとに、子どもたちと共に授業をつくり、見ていただいて御批正を頂戴すること、その全ての過程が教職員一人一人の確かな成長につながるものと思います。そして、それが緑丘の子どもたちの豊かで確かな「深い学び」につながるものと願っております。忌憚のない御指導をよろしくお願いいたします。

さて、現在、次期学習指導要領改訂に向けて検討がなされていると耳にします。

思い起こせば10年ほど前、前回の要領改訂時期にも、実にさまざまなキーワードが私たちの耳に入ってきました。「コミュニティ・スクール」や「チーム学校」といった大きな枠組みのものから、教育課程編成や実施、評価等、内容そのものに関わる「カリキュラムマネジメント」「道德の教科化」「外国語活動」。一コマの授業の在り方や子どもの学びのプロセスや様相にまで踏み込んだ、「アクティブ・ラーニング」など、多岐にわたっていました。

そして今、それらの流れを汲む文言とも取れる「『主体的・対話的で深い学び』の実装」(Excellence)と、まさに現代の学校の状況を象徴する「多様性の包摂」(Equity)、そして「実現可能性の確保」(Feasibility)という三つの大きな柱と、これらに付随する「調整授業時数」「余白」などといった要素が、新たな言葉として学校現場に徐々に届いています。

今回は、視覚的にも整理された図式も伴った提示で、以前よりは身構えることも少ない印象ですし、比べてみると一貫性のある部分と、新たに加わってきた課題という捉えができる分、混乱はやや少ないようですが、私にとっては、変革についていくことに必死、というのが正直なところです。

一方で、これまで進められてきた小学校研究の在り方について、自分の拙い経験も含めてふり返ると、次期要領と共に歩む今後の5年先、10年先を見据えたときにはそれこそ大きな転換期に入っていると感じます。

教職員不足の問題や、教職員の働き方改革が進む中で、これまで通りの、時間と費用をかけた研究推進は難しくなってきました。各学校で研究会の実施に負担感を感じる部分は、全くないとは言えないですし、実際に、夜遅くまで指導案検討に取り組む姿もあります。市内では、研究会を開催しても、なかなか教室を空けられないために参加者が少なくなってきました。開催側は参加者確保のために「指定参加者」という仕組みをつくり迎え入れますが、指定された側の学校では、補欠体制を組むことに困難さが生じています。校内の授業研においても、安全管理の面も含めて見守り体制が必要になり、いわゆる担任外教諭が見回りをしたり、短時間ずつ交代で授業を参観したり、という現状をよく耳にします。

このような潮流の中でも、授業をより良いものへと変えていくための研鑽は必要です。しかし、「昔はできていた。」と嘆くばかりでは変わりません。今、改めて、業務の精選と授業改善の営みを両立させる新たな方策が必要と感じます。緑丘小学校の研究推進のこれまでの歩みと、本日の研究会までの営みに心からの敬意をもちつつ、今回の研究会を礎として、未来を見据えていきたいと考えます。まさに『実現可能性の確保』、持続可能な小学校研究の在り方を追求し、教師と子どもの双方に「余白」を創出することで、子どもにとっての豊かな学びと、教師の確かな成長に繋げていく。その転換の方向性を、今後皆様と共に考えていくための、10年後を見据えた『一手』としての研究会となれば、と願っております。



札幌市立緑丘小学校 学校経営の重点

あこがれとありがとうでつながる学校

人に優しく 自分を磨く みどりっ子

「何のために★誰のために」

～聞こえる子どもの声、聞こえない子どもの声を聴く学校～

緑丘の
こころ
づくり

心のつながりを
大切にする子

同質性から多様
性を尊重する心

緑丘の
まなび
づくり

学びに自分の
意志をもつ子

誰にも自己決定
の場がある授業

緑丘の
からだ
づくり

健康を意識し
自ら行動する子

仲間・時間・
空間の創出

◆ 「何のために」から始まる教育活動

◆ 一人一人の自立を促す しなやかな教育課程

◆ 自ら進んで「創る」自治的な取組

◆ 小中9年間の一貫した教育の推進（啓明中学校区）



緑丘の研究



わたくしたちの よい学校

あこがれとありがとうでつながる みどりっ子

学校教育目標

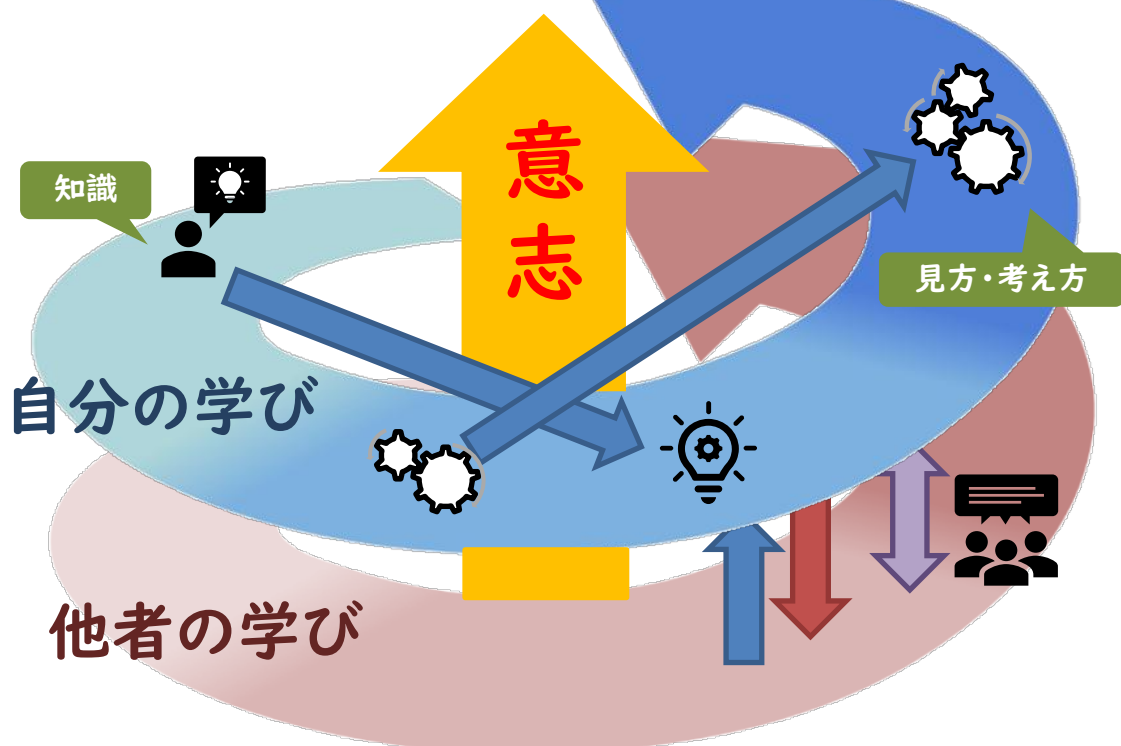
強い子・やさしい子・考える子・きまりよい子

研究主題 **学びに自分の意志をもつ子**

研究の重点

つなぐ学び

資質・能力の育成



1. 自らの学びをつなぐ

見通し⇨行動⇨結果

獲得した知識・生活経験

⇨様々な場面

学んだ学び方⇨新たな課題

働かせた見方・考え方⇨

次に働かせる見方・考え方

2. 他者の学びを 自らの学びにつなぐ

自分⇨他者

目的をもって他者とつながる

他者から学びとることを選択する

他者との学びを通して、

新たな価値を見出す

研究主題

学びに自分の意志をもつ子

「意志」とは

—「学びに自分の意志をもつ子」の育成に向けて—

本校では、令和4年度より継続して、「学びに自分の意志をもつ子」の育成を研究主題として掲げ、研究を進めてきました。3年研究の最終年となる令和8年度は、これまで積み重ねてきた実践を基に、子どもがどのような場面で学びに向かう意志を発揮し、また、その意志をもち続けることができるのかについて、子どもの姿での具現化を目指しながら研究を深めてきました。

今年度は、研究会において他校の先生方にも本校の研究を御覧いただくことを踏まえ、研究の考え方や実践の意図をより明確にしながら、「学びに自分の意志をもつ子」とはどのような姿なのか、また、その姿を支える教師の手立てとは何かについて、全校で追究して参ります。

1. 研究の出発点—教室と職員室の接続

研究の根幹にあるのが、「教室と職員室はつながっている」という考えです。この言葉は、単なる比喻ではなく、実際の教育実践において示唆的な意味をもっています。教室で展開される授業と、職員室で交わされる教師同士の対話や共有は、分断されたものではなく、相互に影響し合い、子どもたちの学びの質を規定するものであると考えます。授業研究や教材研究、日常の指導についての相談やちょっとした立ち話というような、教師同士の職員室での様々な協働が積み重なることで、授業改善の視点が共有され、子どもの学びを支える土台になっていきます。

本校では研究を、特定の授業技術を習得する場としてだけでなく、教師自身が自らの教科観や授業観、指導観、子ども観を問い直しながら成長していく過程として捉えています。教師自身が学び続ける姿勢をもつことが、子どもの学びに向かう意志を支えることにつながると考えるからです。今年度も、職員室が「授業について語り合う場所」であり続けることを大切にしていきます。

2. 研究主題の核心—「意志」をもつとは何か

「学びに自分の意志をもつ子」という表現に込められた「意志」とは、

**自ら何かを「～したい」と望み、
その実現に向けて行動しようとする内面的な働き**

と位置付けています。

この「～したい」という内発的な動機は、単なる感情（好き・嫌い）とは異なり、目的意識を伴って行動に向かおうとする意図を含んでいます。そのため、「意志」は、「願望」や「希望」をもつだけではなく、そこから実際の行動を方向付けるものだと考えます。

研究の重点

つなぐ学び

これまでの研究を通して見えてきたことは、緑丘小の子どもたちは決して「意志をもっていない」わけではないということです。むしろ、一人一人が「～したい」「やってみたい」という思いを強くもっており、日常の活動においてはそのエネルギーが表出する場面も少なくありません。問題は、それが「学び」へと向かうかどうか。そして、それが「学び続ける意志」として持続するかどうかだと考えます。

また、昨年度の研究や子どもの実態からは、「学びたい」という意欲はある一方で、「自分是可以る」「自分の考えには価値がある」という自信との間にギャップがあることも見えてきました。そのため、今年度は、単に学びに向かう意志を引き出すだけでなく、その意志を支える「自信」や「学びの価値の自覚」にも着目して授業づくりを進めています。

子どもが、「前もこの方法でうまくいった」「友達の考えを聞いて分かるようになった」「自分の考えが認められた」と感じることであれば、それは次の学びに向かう意志につながっていきます。私たちが目指しているのは、子どもを変えることなく、子どもが本来もっている意志を、学びに向けて発揮できるよう、教師自身が関わり方や授業の展開、環境づくりを工夫していくことです。

3. 研究の重点—「つなぐ学び」と子どもの実態

本校で継続して、「学びに自分の意志をもつ」ことに着目してきたことで、緑丘小の子どもたちの姿から、強みや課題が見えてきました。

緑丘小の子どもたちの強み

「人の役に立ちたい」という

社会貢献意欲 (94%超)

札幌市教育委員会から発出されている「学習などに関するアンケート」の分析からも緑丘小の子どもたちの学習における強固な土台となっていることが分かります。

その一方で、自己表現へのためらいなど、次のような課題を抱えていることが見えてきます。

緑丘小の子どもたちの課題

- 「解決に向けて方法などの見通しをもって、活動すること、また、そこから考えたことなどを自分から発信すること」
- 「友達の意見を参考にして、自分の学習に生かそうとすること」

17	自分の目標をもって生活している。	83.3%	「解決に向けて方法など見通しをもって、活動すること」 ことに関係する項目 (特に、No.20 に関しては近年減少傾向にある。)
19	自分で計画を立てて勉強している。	76.5%	
20	疑問や課題を解決するために、 <u>自分で方法を考えるようにしている。</u>	80.8%	
22	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	88.7%	
6	自分が思っていることや感じていることを人に <u>伝えている。</u>	75.1%	「考えたことなどを自分から発信すること」に 関係する項目
7	自分の意見を <u>進んで発言しようとしている。</u>	71.8%	

「友達の意見を参考にして、自分の学習に生かそうとすること」に 関係する項目	11	新しく学んだことを、 <u>他の学習や生活の場面で使おうとしている。</u>	81.6%
	16	振り返ったことを、 <u>次に生かそうとしている。</u>	82.3%

「学習などについてのアンケート」(令和6年度実施)より抜粋

だからこそ、今年度の研究では、意志を「もつ」だけではなく、様々な場面で発揮された意志をもち続けることが重要だと考え、

研究の重点 「つなぐ学び」

を設定しました。

現行の学習指導要領が施行され、主体的・対話的で深い学びが重視される中で、「つなぐ」ことを意識した学びの重要性は以前から示されてきました。しかし、本校では、子ども自身が「つなぐ」よさを実感できることこそが、学びへの意志を発揮し、持続させる原動力になると考えています。

本校の「つなぐ学び」とは、知識同士が結び付くことだけではありません。

「前にも似たことを考えた。」「あの時の考え方が使える。」「友達の考えを聞いて、自分の考えが広がった。」というように、子ども自身が、学びがつながっていることを自覚することを意味しています。

子どもが、「学びはつながっている」「友達と学ぶことには意味がある」と感じることができれば、次の学びへの期待感が生まれ、「もっとやってみたい」「次はこうしたい」という意志へとつながっていくのではないのでしょうか。

ここで、「つなぐ学び」について、具体的な事例で考えてみます。

6年理科「水溶液の性質とはたらき」の学習の際に、水溶液に溶けているものが何かを明らかにしたいと考えた子どもが、「出てきた白い粉を顕微鏡で見れば、溶けていた物が何か分かる。」と言ってきたのです。

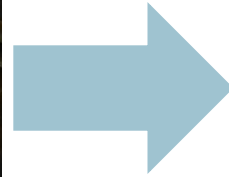
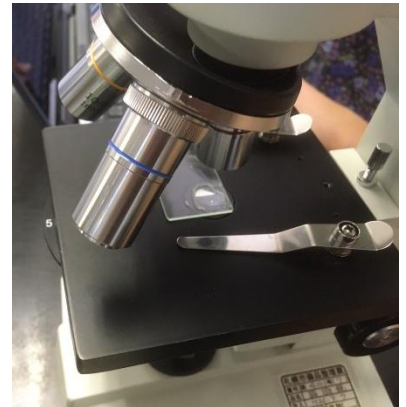
その子どもは、5年生の「物のとけ方」の学習の際に、顕微鏡で食塩やミョウバンの溶ける様子や析出した様子を観察した経験がある子どもでした。

過去の実践から

このことから、子どもは、5年生の理科の学習で、顕微鏡で観察して溶け方について明らかにした経験を、6年生の水溶液の学習につなげることで、学ぶ意志を強めたのではないかと考えました。

6 年理科

「水溶液の性質とはたらき」



5 年理科「物のとけ方」

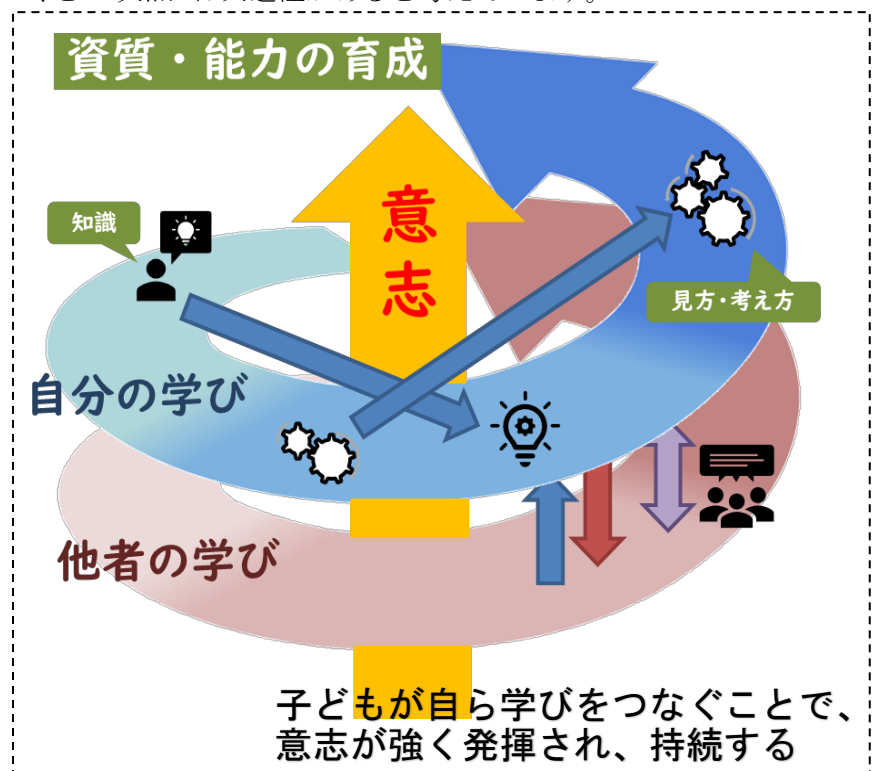
このような単元間や学年間でのつながりが感じられた事例は他の学習でも見られました。しかし、いずれも教師が意図的につながる構成にしていたのではありませんでした。もし、今回の研究で、意図的に子ども自らが学びをつなげられるようにできれば、子どもたちの意志が強く発揮され、持続するのではないかと考えました。

また、このような姿は理科だけではなく。

算数では、割合や図、式など、これまで学習した考え方を手掛かりにしながら新しい問題を解決しようとする姿があります。「前に使った図を使えば考えられそうだ。」と、自ら既習事項をつなげることは、新しい問題の解決への意志につながります。

国語では、友達の考えを聞くことで、「その言葉に注目したのか。」「自分の考えをもう少し変えてみたい。」と、自分の考えを更新していく姿があります。他者との対話を通して、自らの学びを広げていくことも、「つなぐ学び」の一つだと考えます。

このように、教科は違っても、子どもが学びをつなぐことで、学びへの意志が支えられていくという点には共通性があると考えています。



4. 2つの視点から見る「つなぐ学び」

では学習の中で、子どもは何をつなぐのでしょうか。
本研究では、「つなぐ学び」を2つの視点から具体化します。

視点1 自らの学びをつなぐ

視点2 他者の学びを 自らの学びにつなぐ

【自らの学びをつなぐ】

ここで大切にしたいのは、子どもが「この前のやり方が使える。」「この考え方でやってみよう。」と、自分の学びをつないでいく姿です。ここでいう学びには、いくつか意味があります。

◇見通し⇔行動⇔結果

つなぐ学びの1つとして、単元の見通しをもち、行動し、その結果を次の見通しにつなげるということが考えられます。これは、札幌市が課題探究的な学習を捉え直す視点として位置付けているAARサイクルとも関係の深いものだと考えています。

◇獲得した知識⇔様々な場面や生活経験

前時までの学習で獲得した知識や生活経験を活用して問題を解こうとしたり、本時で明らかにしたことを次の時間の学習、次の単元などにつなげようとしたりすることも、学びをつなぐ姿だと考えます。

◇学んだ学び方や働かせた見方・考え方⇔新たな課題

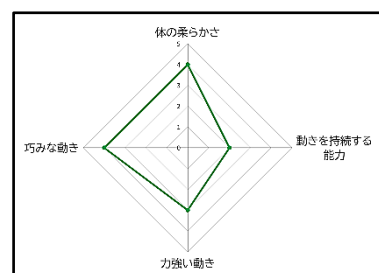
顕微鏡を使って追究した子どもの例のように、課題を解決した際に、学んだ解決の方法、いわゆる「学び方」を次の課題でも生かせないかとつなげることも学びをつなぐことになると考えます。また、単元を通して見方・考え方を働かせることで、その経験が、次の単元につながり、同様に見方・考え方を働かせる姿として現れることもあるでしょう。

【他者の学びを自らの学びにつなぐ】

一昨年度の取組では、視点2を「自ら他者とつながる」としていました。しかし、実践を積み重ねる中で、交流の場を設定すること自体が目的化してしまい、「なぜ話し合うのか」「交流の先に何があるのか」という意識が十分ではなかったという反省がありました。そこで昨年度から、「他者の学びを自らの学びにつなぐ」と視点2を改め「なぜ話し合うのか」「何のために友達と考えを共有するのか」という目的をもったつながりを大事にしました。

他者がどの工夫の視点を取り入れようとしているのか可視化することで、自分と違う視点を取り入れている他者の学びもつなげられるようにした。

5年体育 「体づくり運動」



自分に合った課題を見つけるための、体力テストの数値を基にしたレーダーチャート。



工夫の視点と運動の効果の知識を運動の行い方の選択とつなげた。



終わりに

そして、今年度も大切にしたいことは、交流そのものではなく、他者との関わりを通して、自らの学びが更新されたり、広がったりすることです。

友達の考えを聞くことで、

「そんな考え方があったのか。」

「自分の考えと比べるとどうだろう。」

「その方法を取り入れてみたい。」

と、自分の学びに価値ある変容が生まれることが重要だと考えます。

そのためには、教師が単に「話し合しましょう。」と促すだけではなく、

・なぜ交流する必要があるのか。

・誰とつながると学びが深まるのか。

・交流によって何を得たいのか。

という必然性を、授業の中で位置付けていく必要があります。

子どもたちが、

「友達とつながると、こんな発見がある。」

「あの子の考えが、自分の考えを広げてくれた。」

という感覚をもつことができれば、対話や協働の価値を自覚し、それが新たな学びへの意志へとつながっていくのではないのでしょうか。

また、そのような経験の積み重ねは、自分の考えに自信をもつことや、自ら発信しようとする姿にもつながっていくと考えます。

5. 終わりに

—研究を深めるために教師自身が問いをもつ—

「学びに自分の意志をもつ子」の姿とは、具体的にどのような姿なのか。それは各教科において異なる表れ方をします。例えば、理科においては追究の仕方を変化させる姿として、社会科では、資料に浸り得た根拠を基にする姿として、国語では目的と相手意識をもち、既習や言葉を拠り所にする姿として、体育では解決に向けて自ら道筋をつけながら運動の行い方を工夫している姿として表れるのではないのでしょうか。重要なのは、教師自身が、それぞれの教科における「意志をもっている姿」を具体的に捉え、それがどのような資質・能力の育成とつながっているのかを理解し、見取ることです。

また、今年度の研究では、子どもが「学びがつながっていること」や「他者と学ぶ価値」を自覚できるようにするために、どのような手立てが有効なのかについても検証していきます。

本校の研究会では、子どもがどのようにつながりを見だし、どのような場面で意志を発揮し、また、持続させているのかという視点から、授業を御覧いただければ幸いです。

研究とは、単なる技術の研修ではなく、教師自身が問いをもちながら授業に向き合い、教科観や授業観を問い直していく営みだと捉えています。3年研究の最終年となる令和8年度は、これまで積み重ねてきた研究を整理しながら、「学びに自分の意志をもつ子の育成」の意味を改めて問い直し、研究を深めていきます。

意志をもって学ぶからこそ、育むことができる力や姿があると信じて、今年度も一步一步、研究を進めて参ります。

【参考文献】

- 白井俊著『OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来—エージェンシー、資質・能力とカリキュラム』ミネルヴァ書房（2020）
- 田村学著『深い学び』東洋館出版社（2018）
- 田村学著『学習評価』東洋館出版社（2021）
- 鳴川 哲也/塚田 昭一編著『小学校理科と個別最適な学び・協働的な学び』明治図書出版（2024）
- 鹿毛 雅治/藤本 和久編著『「授業研究」を創る—教師が学びあう学校を実現するために—』教育出版（2017）



各部の主張と指導案

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

部で示した意志をもっている姿を基に、本単元全体で想定される意志をもっている子どもの姿を記述している。

政治単元では、国の政治の働きについて学ぶことで、国民主権を担う公民としての自覚を養うことをねらう。しかし、実際の子どもの社会参画意識は低い水準であり、当事者意識には課題がある。そのため、政治に対する興味・関心を育み、暮らしと政治とのつながりを実感し、人々の願いを達成するために、どのように政治を行っているのかについて自分事として追究するための証拠を集め、選択する姿が生まれると考えた。また、そのような意志をもっている姿を、単元を通して生むことが、社会の形成者として自ら判断し社会参画していくことにつながる。

本単元での意志をもっている姿を、「なぜそのように設定したのか」「なぜそのような姿を生むのか」について具体的に記述している。

【単元の目標】

札幌市の政治は、国民主権の考えの下、市民の様々な願いを実現し、生活の安定と向上を図る大切な役割をしていることを理解するとともに、子育てサロンの見学や聞き取り調査、市のホームページや広報誌等複数の資料から証拠を集めて読み取り、整理することができるようにする。

【知識及び技能】

・子育て支援に関する政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、札幌市の政治の取組を捉え、市民の様々な願いを実現するための政治の働きについて証拠を基に追究し、表現することができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

・札幌市の子育てに関する政治の取組について、主体的に学習の問題を解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりするとともに、多角的な思考や理解を通して日本の将来を担う国民としての自覚をもつことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

暮らしと政治のつながりが実感できる教材化

自らの学びをつなげられるようにするために、何をするのか（手立てとその意図）について記述している。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

他者につながる必然性を生む教師の関わり

他者の学びを自らの学びにつなげられるようにするために、何をするのか（手立てとその意図）について記述している。

【単元構成（8時間扱い）】

1～2時間目	3～4時間目	5～6時間目	7～8時間目（本時）
札幌市は子育てに関する人々の願いを実現するために、どのように政治を行っているのだろう？			
 <p>日本の人口は減少している。札幌市も例外ではない。</p> <p>私たちの住む札幌市は、人口が減少している。</p> <p>日本の人口が減少している理由や人口が増えている理由はある。</p> <p>札幌市は、子育てに関する人々の願いを実現するために、様々な施設やサービスを提供している。</p> <p>緑丘小や児童会館「ミラクル」、幼稚園・保育園など、自分たちの身近な施設も子育て支援の場所だ。</p>	<p>様々な施設で行われている子育てサロンって何だろう？</p> <p>子育てサロンには、週3日・3時間以上開かれている施設がある。</p> <p>子育てサロンの役割は？</p> <p>子育てサロンは、0歳～就学前の子どもと保護者やこれから親になる人などが交流したり、子育ての悩みを相談したりできる場所。親子でどのようなことをしているかも、見学調査をして分かったよ。</p>	<p>子育てサロンはどのようにして作られているのだろう？</p> <p>子育てサロンのお金はどこから？</p> <p>市民の要望を市役所が受けて、それを基に計画・予算案を作成し、市議会で議決されると、市民の税金や国の補助金を使って実現していくよ。自分たちの暮らしと政治は深くつながっているね。</p>	<p>児童会館にあるのに、どうして町内会の人たちも子育てサロンを開催しているの？</p> <p>子育てしやすい地域づくりを目指しているんだね。</p> <p>子育てサロンをよりよくしていきたいな。</p> <p>市民の子育てに対する願いを実現するためには、子育てサロンをどう活用していく必要がある？</p> <p>市民の子育てに対する願いを実現するためには、札幌市と町内会がそれぞれの立場で、利用者の願いに合った子育てサロンになるようにしていく必要がある。</p> <p>せんきよ体験授業 自分の住む地域・町内会への関わり</p>
<div>単元の学習課題(題材設定)</div> <div>教師が提示する学習課題・発問</div> <div>問い</div> <div>子どもの思考</div> <div>問いの解決 (単元構成の1番下では単元の学習課題の解決)</div>			
<div>単元の中で軸となる目標</div> <div>網掛けや矢印などで、学びのつながりが見えるように表記している。</div>			

【本時の目標】

札幌市の子育てサロンの運営の仕方について追究する活動を通して、多様な市民の願いを実現するために札幌市や町内会が協力し、必要に応じて市や町内会に働きかけを行うことについて表現することができるようにする。

意志をもっている子どもの本時の目標

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】 (8/8)

子どもの意識と活動		つながっている学び	教師の意図と関わり
<div><前時まで></div> <div>前時までの子どもの活動と思考の流れについて</div>			
子育て支援の拠点「子育てサロン」をよりよくするには？			
<div>札幌市</div> <div>児童会館「ミラクル」</div> <div>週3回いつも</div>		<div>町内会</div> <div>南円山会館・緑丘小</div> <div>年6回程度</div>	
子育てしやすい地域に			
開催場所が多い方が、どこに住んでいる人にとっても利用しやすい場所になるはずだ。		開催日数が多い方が、日常的に活用することができて利用しやすい場所になるはずだ。	
本時の問い			
場所を増やすとなると、建設費が必要になるね。でもこれ以上支出は増やせないはずだよ。		地域の子育てサロンだったら建設費や人件費を増やすことなく運営できるよ。	
運営に携わる保育士などの人件費も必要になってしまうよ。		でもボランティアの担い手不足や高齢化が問題にあったよね。	
場所が増えると利用者が分散して、地域ネットワークとしての機能を失ってしまわないかな。		児童会館の子育てサロンと違って運営費もほぼ無いから、運営できなくなるかな。	
日常的な居場所や保育士に相談したい人にとっては、児童会館の子育てサロンが必要だね。		家の近所や地域住民とのつながりがほしい人にとっては地域の子育てサロンが必要だね。	
それぞれの立場で利用者のニーズに合わせて、開催場所と開催日数を補い合っているね。			
本時の問いの解決			
児童会館の子育てサロンを続けていくために、将来税金を納めたり、自分の思いを実現してくれる人に投票したりしたいな。		地域の子育てサロンを続けていくには地域住民が参加していくことが必要。自分も町内会の行事に参加してみようかな。	

子どもの考えや活動が、前時までのどのような学びをつなげている姿なのか明確になるようなキーワードを、子どもの学習活動や時間帯と揃えて記述している。

2つの子育てサロンの問題点について考えを明確にできるように、前時までに学んできた開催場所と日程、利用者の願いなどの証拠を想起する。
(視点1)

教師の意図や関わりについて記述している。

視点1・2に関わる手立てのほか、教科的な手立ても記述している。

ときには、同じ立場の人と考えを共有するよう促す。
(視点2)

子育てサロンを通して見える暮らしと政治とのつながりについて振り返る時間を担保することで、今の自分や将来の自分がどのように社会参画していくかという意識につなげられるようにする。
(視点1)

【本時の評価】

札幌市の子育てサロンの運営の仕方について、多様な市民の願いを実現するために札幌市や町内会の

本時の目標に照らし合わせた際に評価する子どもの姿と評価方法

(行動観察・発言・ノート)



特別活動部会

部の主張
指導案

特別活動部

特別活動を通した意志をもっている姿

今のクラスや自分の現状を捉えて、多様な他者と合意形成を図ったり、意思決定したりしながら、よりよい生活やよりよい自分を自ら創り出そうとしている姿

視点 1

自らの学びをつなぐ

【その姿に向かうために】

- 提案ポストの設置や学級内アンケートを活用して、主体的に目指したい学級について考える機会をつくる。そうすることで、よりよい集団になるためにはどうすべきか、一人一人が自分ごととして考えをもつことができるようにする。
- 年間を通して繰り返し話し合い活動を行う中で、納得解が生まれる合意形成の仕方や自分の課題解決に向けた意思決定の仕方を経験を通して学べるようにする。そうすることで、一人一人の多様な考えをつなぎながら、よりよい解決方法を自ら選択できるようにする。
- これまで行ってきた学級会や話し合い活動、その後の活動の足跡を学級に掲示する。そうすることで、決定までの経緯を振り返り、大切にしたいことを見直したり、課題を捉え直したりして自己理解を深め、次の議題設定や話し合い活動に向けて意欲を高められるようにする。

視点 2

他者の学びを 自らの学びに つなぐ

【その姿に向かうために】

- 子どもの多様な意見を、目的と照らし合わせて整理したり、それぞれの意見の価値を取り上げたりすることで、他者の考えを受け止め、よりよい解決方法を選択できるようにする。
- 様々な意見に触れて、自分の考えや思いはどうなったのかを書き残す時間を設けることで、他者との交流を通して、自らの考えを深めていくことのよさを理解できるようにする。
- 他者と協働して話し合いで決まったことを実践する中で、その活動の価値や新たな視点、改善点などの気づきを振り返る場を設ける。そうすることで、他者と学び合うよさを実感し、学びから得た経験を今後の自己の生き方に生かすことができるようにする。

※下線は教師の手立てを示している。

『チャレンジ集会をしよう』

令和 8 年 11 月 6 日 (金)
 児童 3 年 2 組 29 名
 授業者 黒田 健太

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

学年目標を意識して成長するために、協力のかたちを話し合い、絆を深める集会を行おうとしている姿

4 月に立てた目指したい学級像を子どもたち自身が捉え直した時、自信をもって達成できていると言える子どもは少ないと考える。自分たちでつくり上げた目標を、自分たちで達成できたという自信をもたせたい。そこで 1 学期に目標設定を見直した際にまだ到達できていなかった 3 つのチャレンジ (学習・友情・生活) の中でも、子どもたち同士の信頼関係につながる「協力」に焦点化し、自分たちのクラスの現状を見直す場面を設定した。更に協力する価値を話し合うことで、目指したい姿が明確になると同時に、その目標に向かって自分がクラスのためにどのような行動ができるかを具体的に考え、集会活動を通して主体的に活動できるようにしていく。このような学びを繰り返すことで、同じ目的意識をもった子ども同士の関わり合う機会が増え、互いの理解につながり、誰に対しても分け隔てなく進んで関わりをもてる人間関係を築くことができるようになると思う。

【単元の目標】

- ・「協力」を意識した学級集会を自分たちで創り上げることの大切さを理解し、学級会の中での合意形成の仕方やチャレンジ集会を実現するための方法を身に付けることができるようにする。【知識及び技能】
- ・「協力」を意識した学級集会を自分たちで創り上げるための問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図ることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・チャレンジ集会の話し合いを通して、様々な協力のかたちを受け止めながら、共に活動していく中でよりよい人間関係を築こうとすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

視点 1 「自らの学びをつなぐ」

自分ごとにつなげる意識の醸成

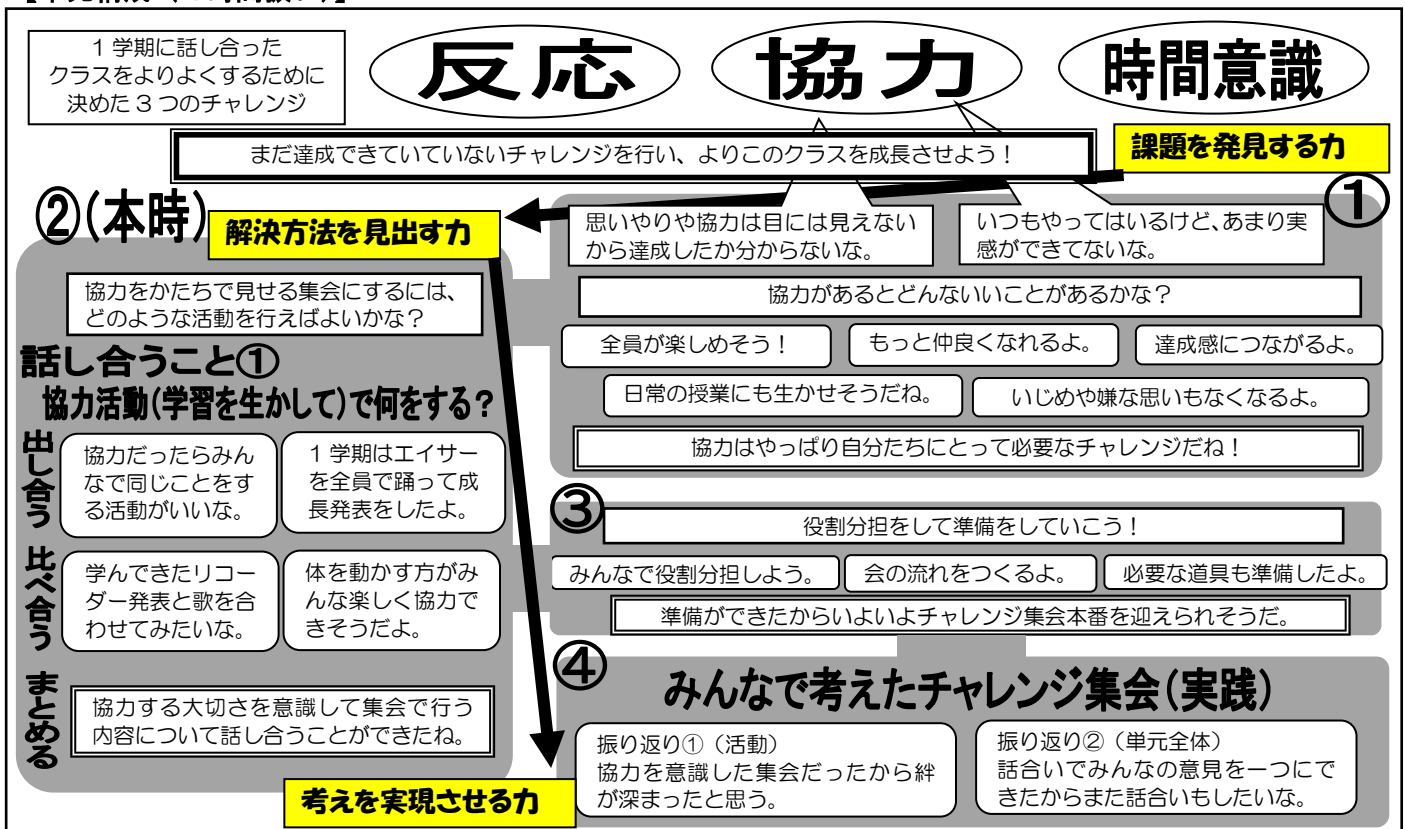
単元の 1 時間目に、4 月に立てた目指したい学級像を振り返り、達成度を振り返る機会を設け、自分たちの成長や更に改善すべき課題を捉えられるようにする。更に学級の課題を改善していくために自分が何をすべきかを考える機会を設ける。そうすることで、学級の課題を自分ごとと捉え、自分の行動のつながりに気付けるようにする。より自分たちが成長するために活動を企画する価値を捉え、自ら進んで絆を深める集会をしたいという意志へつながると考える。

視点 2 他者の学びを自らの学びをつなぐ

目的 (提案理由) へ立ち戻る

「比べ合う」の段階で、これまで出てきた意見と提案理由との関連性を捉え直す場面を設ける。そうすることで、自分がやりたいかやりたくないかという賛成・反対意見という捉えだけではなく、活動を具体化する話し合いの中で大切にしたい考えに気付けるようにする。自分の考えや他者の意見を目的 (提案理由) と照らし合わせる活動を通して、集会の中でやるべきことが明確となり、集団の納得解へつながることができると考える。

【単元構成 (4 時間扱い)】



【本時の目標】

3年2組でチャレンジしたい「協力」を実現するための取組を考える活動を通して、合意形成を図りながら、よりよいクラスの実現に向けて自分の思いを伝えることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（2/4）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図と関わり
<p>＜前時まで＞</p> <p>クラスでチャレンジしたい3つの項目のうち「協力」にテーマを絞り、協力することのよさについて学級全体で共有している。また集会でどのようなことができるか、考えを深めている。</p>		
<p>議題：チャレンジ集会で協力をかたちにする活動を考えよう</p> <p>決まっていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11月13日（金）2時間目に行く。 ● 場所は体育館で行う。 ● 活動時間は30分間とする。 	計画委員会での話し合い	<p>話し合いの中でブレてはいけなく軸を捉え直すために、前時までにおさえた「協力するよさ」を想起させる。（視点1）</p>
<p>3年2組のみんなで協力するよさは？</p> <p>さらに仲良くなれる・できることがふえる・心が一つになる</p>	協力するよさの具体的な姿	<p>賛成・反対が多く出てきた段階で、それぞれの意見が大切にしていることを確認した上で、提案理由との関連性がもっているものを価値付ける。そうすることで、他者の考えを参考に、自分の考えが、クラスの団結力の高まりや仲のよさ、成長へとつながられる目的になっているかを捉え直せるようにする。（視点2）</p>
<p>提案理由</p> <p>クラスをよりよくするために掲げた「協力」をかたちで見える集会を行いたい。そうすることで、みんなの団結力が高まりよりクラスみんなが仲良く、さらに成長できると思うから。</p>	「チャレンジ集会」プログラム	
<p>協力をかたちで見せる集会にするにはどのような活動を行えばよいかな？</p>		
<p>話し合うこと①:協力活動(学習を生かして)で何をする？</p>		
<p>出し合う比べ合う</p> <p>鬼ごっこはみんなで楽しく活動できるよ。</p> <p>ボール遊びもみんなで楽しくできる活動だよ。</p> <p>折り紙が好き人が多いから紙飛行機飛ばしはどうか。</p> <p>みんなでエイサーを楽しく踊れたら楽しそう。</p>	話し合いの仕方 出し合う比べ合う まとめるの流れ	<p>多様な意見から、納得解につなげることに困難さを感じている子どもを見取り、これまで話し合いの中で生かしてきた合意形成の仕方に立ち戻れるように関わることで、問題解決に向けた考えをもてるようにする。（視点1）</p>
<p>走り運動として鬼ごっこはいいと思うけど協力かな？</p> <p>体育の学習で行ったキックベースボールならできそう！</p> <p>折り紙はみんなで作るならいいけど、できるか心配だな。</p> <p>みんなで動きをそろえて行くと協力につながりそう。</p>	これまでに行ってきた活動の経験	
<p>どうすれば決められるかな？</p>		
<p>心配なことは～で解決できそう！</p> <p>〇〇ならみんな納得だね！</p>	合意形成の仕方	<p>学級会の内容や話し合いの仕方を振り返り、今後の見通しを確認する場を設定することで、自分が納得できた答えに気付き、よりよい集会をつくっていかうとする意欲を高められるようにする。（視点1）</p>
<p>協力する大切さを意識して集会で行う内容について話し合うことができたね。</p>		
<p>今日の学級会を振り返ろう</p> <p>話し合いの中でも、「協力」を意識して話し合えたよ。</p> <p>これから役割分担をしながら楽しい活動につなげていきたい。</p>		

【本時の評価】

提案理由を基に、他者の考えを受け止めながら、「協力」が形になる集会の活動について自分の考えを表現することができている。

（発言・ワークシート）

『「響」学習発表会をつくろう！』

令和 8 年 11 月 6 日 (金)

児童 6 年 2 組 30 名

授業者 千葉 朋輝

【本題材で目指す意志をもっている姿とその理由】

これまでの成長を捉え、「響」学習発表会の実現に向け、自分に合った取組を選択・実践しようとしている姿

子どもたちは学校行事に意欲的に取り組む一方で、自分に合った目標や取組を意思決定することには課題がある。そのため、友達の考えを参考にしながら自らの学びを更新し、自分に合った意思決定をする力を培わせたい。本題材では、学年目標「響」の実現を目指す「学習発表会」を題材として設定した。これまでの学校生活での経験や学びを振り返るとともに、学習発表会の意義や身に付けたい力について考え、交流する活動を取り入れることで、自他の学びを結び付けながら、より自分に合った取組を意思決定できるようにした。そうすることで、交流を通して自分の考えを広げたり深めたりしながら、自分に必要な取組を主体的に選択し、学習発表会に向けて実践しようとする姿が生まれると考えた。また、このような「他者の学びを自らの学びにつなぐ」経験を積み重ねることが、自らの学びに意志をもち、主体的に実践し続けようとする子どもの育成につながると考える。

【題材の目標】

- ・学年目標「響」の実現に向けて、学習発表会の取組を行うことの意義を理解するとともに、一人一人が役割や目標をもって活動するために必要な知識や行動の仕方を身に付けることができるようにする。【知識及び技能】
- ・「響」学習発表会をよりよいものにするために、自分の経験や考えと友達の考えを結び付けながら自己の課題を見だし、自分の成長に必要な取組は何かについて話し合い、自分に必要な取組を意思決定することができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・「響」学習発表会に向けて、自分の役割や目標を意識しながら主体的に活動するとともに、友達と認め合い、支え合いながら学級や学年の一員として主体的に取り組むことができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

視点 1 自らの学びをつなぐ

これまでの成長と学習発表会の価値をつなぐ題材構成

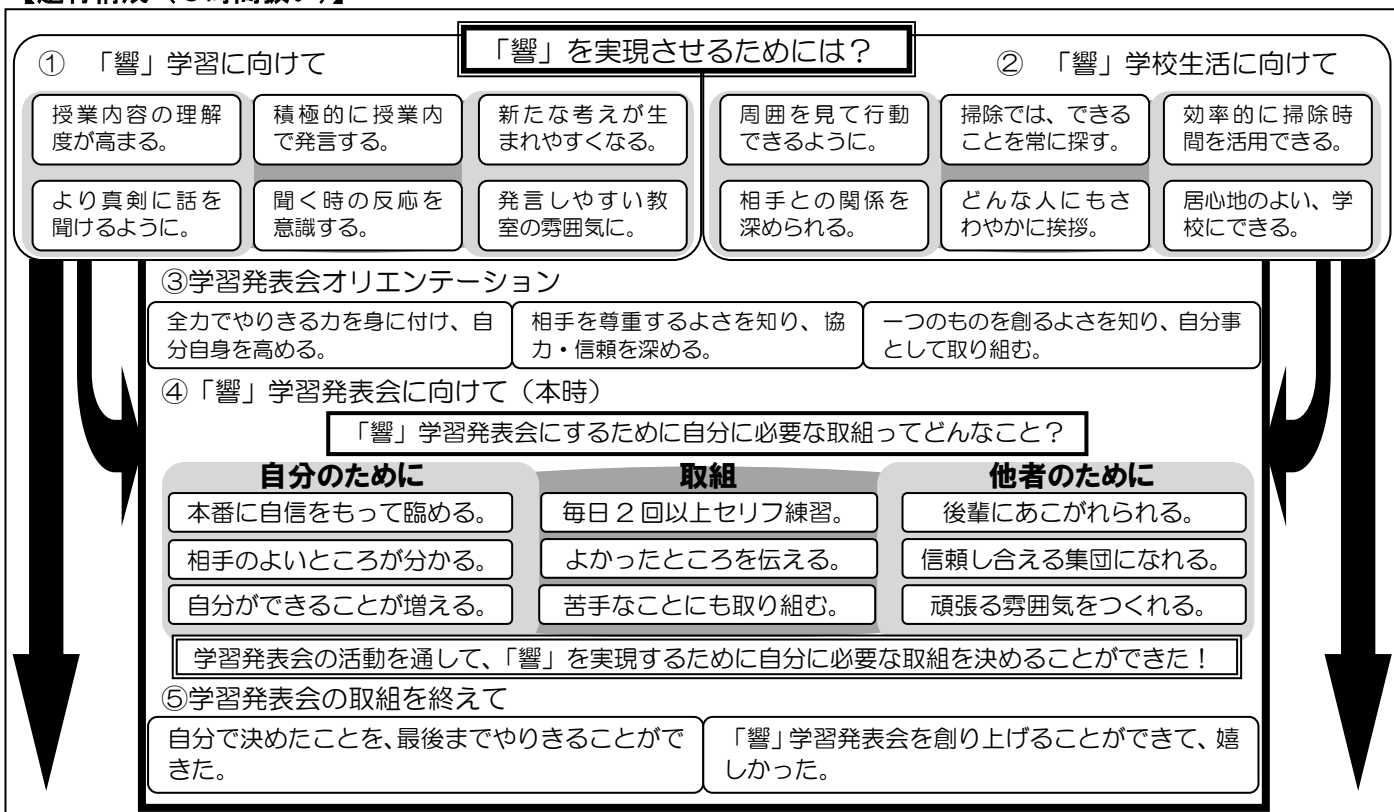
前時にオリエンテーションを行い、学習発表会の意義や学年目標「響」との関連について共通理解を図る。本時では、6 年生になってから成長したことを振り返るとともに、「あこがれた 6 年生の姿」についての全校アンケートを提示し、自分たちの成長や期待される 6 年生像を実感できるようにする。更に、学習発表会を通して学年で目指す姿を考える活動を位置付けることで、これまでの学びや成長と学習発表会の意義を結び付け、自分に必要な取組を主体的に意思決定していく姿を生む。

視点 2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

自分の考えを更新する交流の工夫

学習発表会の意義の中から特に大切にしたいものを事前に選択し、目的意識をもつことができるようにする。また、自分が考えた取組について、聞きたい相手を選んで交流する場を設定し、相手の考えや取組の理由を聞くことで、自分にはない考えや取組のよさに気づき、考えを広げることになる。更に、多様な取組を「自分のため」「他者のため」の両面から整理することで、成長や周りへの働きかけと結び付けながら、自分の成長につながる取組を選択して実践しようとする姿をねらう。

【題材構成（5 時間扱い）】



【本時の目標】

「響」学習発表会を創り上げるために、自分の成長に必要な取組は何かを考える活動を通して、他者の考えを取り入れながら、自分に必要な取組を意思決定できるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（４／５）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図と関わり												
<p>＜前時まで＞</p> <p>「学習発表会は何のためにやるのか」についてオリエンテーションで話し合い、「響」学習発表会にするためには、一人一人が成長できる取組を行うことが大切だということを理解している。</p>														
<p>【つかむ】６年生になってから成長したことは？</p> <div> <div>運動会では協力する力が身に付いた。</div> <div>修学旅行では自分たちで決めたことを実行できた。</div> </div> <p>○「６年生のあこがれた姿」についての全校アンケートを提示</p> <div>学習発表会でも「響」かせることができればいいな！</div> <p>【さぐる】学習発表会を通して学年として「なりたい姿」は？</p> <div> <div>どんな人にも思いやりをもって接することができる学年になりたい。</div> <div>どんなことにも全力で取り組める学年になりたい。</div> </div> <p>○学習発表会の意義を確認</p> <div> <div>自分自身に自信をつけるため、全力でやりきる力を身に付ける。</div> <div>友達とお互いの努力を認め合うことで、相手を尊重するよさを知る。</div> <div>自分たちで考え、取り組むことで、自分たちで一つのものを創り上げるよさを知る。</div> </div> <p>一人一人が成長に必要な取組を進めていくことが必要！</p> <p>「響」学習発表会にするために自分に必要な取組ってどんなこと？</p>	<p>つかむさぐる見つけるきめるの流れ方</p> <p>今までの活動による成長の実感</p> <p>学習発表会を行うことの価値や身に付く力の理解</p>	<p>学習発表会への目的意識をもてるように、前時のオリエンテーションで共有した学習発表会の意義を想起する。合わせて、「６年生になってから成長したこと」や全校アンケートを基に、自分たちの成長や目指す姿を振り返る活動を設定することで、これまでの学びや成長と学習発表会の意義を結び付け、自分に必要な取組を考えられるようにする。（視点１）</p>												
<p>【見つける】自分が特に頑張りたいことは？</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>自分のために</th><th>自分を高める</th><th>他者のために</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自信をもって本番に臨むことができる。</td><td>家で毎日２回以上セリフ練習。</td><td>あこがれられる発表を見せられる。</td></tr> <tr> <td>友達のよいところを探す力が付く。</td><td>協力・思いやり 友達のよかったところを伝える。</td><td>仲を深め、信頼し合える集団に近づく。</td></tr> <tr> <td>自分ができることを増やせる。</td><td>自分事に 苦手なことでも全力で取り組む。</td><td>学級として、頑張る雰囲気ができる。</td></tr> </tbody> </table>	自分のために	自分を高める	他者のために	自信をもって本番に臨むことができる。	家で毎日２回以上セリフ練習。	あこがれられる発表を見せられる。	友達のよいところを探す力が付く。	協力・思いやり 友達のよかったところを伝える。	仲を深め、信頼し合える集団に近づく。	自分ができることを増やせる。	自分事に 苦手なことでも全力で取り組む。	学級として、頑張る雰囲気ができる。	<p>話し合いの行い方</p>	<p>自分が考えた取組について、「自分のため」「他者のため」の両面からそのよさを考えるとともに、聞きたい相手を自ら選んで交流する場を設定する。交流を通して、他者の考えと自分の考えを比較し、自分にはなかった取組や考え方に気付くことで、自分の考えを広げ、他者の考えを取り入れながら、自分に合った意思決定ができるようにする。（視点２）</p>
自分のために	自分を高める	他者のために												
自信をもって本番に臨むことができる。	家で毎日２回以上セリフ練習。	あこがれられる発表を見せられる。												
友達のよいところを探す力が付く。	協力・思いやり 友達のよかったところを伝える。	仲を深め、信頼し合える集団に近づく。												
自分ができることを増やせる。	自分事に 苦手なことでも全力で取り組む。	学級として、頑張る雰囲気ができる。												
<p>【きめる】自分が取り入れたいと感じた取組は？</p> <p>学習発表会の活動を通して、「響」を実現するために自分に必要な取組を決めることができた！</p> <p>○振り返り</p> <div> <div>今回、自分で決めた取組を毎日続けられるように頑張りたい！</div> <div>今までより、もっと具体的に目標を決めることができた！</div> <div>自分で決めた取組を通して、「響」学習発表会を創り上げ、日常生活もよりよくしたい！</div> </div>	<p>理想的な目標の定め方</p> <p>振り返りの行い方</p>	<p>交流を通して更新した考えを基に、自分が取り入れたい取組を意思決定し、その理由を振り返ることで、自ら選択した取組を学習発表会で実践しようとする意欲につなげられるようにする。（視点１）</p>												

【本時の評価】

自分に合った意思決定をするために、他者の意見を取り入れ、自分を高める・協力や思いやりを伸ばす・自分事に捉える取組から自分に必要なものを選んでいく。（行動観察・ワークシート）

緑丘小 第24回教育実践研究会 助言者・協力者一覧

日 程	部 会	助言者	授業協力者
I 期 9月18日(金)	社会	石川 円 (山鼻小)	栗原 聡太郎 (芸術の森小)
	算数	小松 孝昭 (米里小)	三國 将広 (附属札幌小)
	図画工作	富波 修 (中央小)	菊地 惟史 (幌西小)
	体育	大牧 眞一 (北教大教授)	佐藤 圭一 (手稲鉄北小)
	外国語	岩村 鋭介 (藤野南小)	大原 拓幸 (もみじの森小)
	道徳	長野 文洋 (開成小)	北山 達大 (平岸西小)
II 期 11月6日(金)	国語	唐澤 俊樹 (幌西小)	松岡 佑 (附属札幌小)
	理科	古川 勉 (山の手南小)	坂下 哲哉 (附属札幌小)
	生活・総合	大宮 健一 (幌南小)	助川 陽一 (大谷地小)
	音楽	山田 健一 (伏見小)	数田 浩樹 (発寒南小)
	特別活動	鎌田 哲至 (新光小)	福本 勇太 (福移学園)
	特別支援	田中 進一 (山の手支援)	大塚 陽子 (手稲中央小)

【研究 同 人】

【校 長】	三戸部文彦		
【教 頭】	中島 大輔		
【国 語】	坂野由美子（6年）	羅津日向子（5年）	中島 幹太（5年）
【社 会】	谷川 充（4年）	奥泉 峻（5年）	平 侑真（3年）
【算 数】	三浦聡一郎（2年）	池野 翔太（1年）	佐野 楓河（4年）
	松村 倫宏（担任外）	間山ことみ（担任外）	
【理 科】	磯川 祐人（3年）	池田 拓樹（3年）	
【生活・総合】	森下 恭時（6年）	菅原 裕子（2年）	
【音 楽】	二木 愛花（1年）	工藤 壮生（2年）	喜井 調（主幹教諭）
【図 工】	北野信次郎（5年）	渡辺恵美子（1年）	
【体 育】	齋藤 未来（6年）	清橋隆之介（4年）	
	清水 美鳥（養護教諭）	高久はるな（養護教諭）	
【道 徳】	高橋 周（2年）	中野梨紗子（5年）	酒井 利来（4年）
	山内 聡子（教務主任）		
【外国語】	太田 麻子（専科）	和田 誉（4年）	
【特別活動】	黒田 健太（3年）	千葉 朋輝（6年）	
【特別支援】	木村 裕昭 石川 富美 森 達也		
	篠原 唯 岩井 千波 奥山 陽子		
【時間講師】	山根ひとみ		
【非常勤講師】	逸見 直和		
【事務職員】	相高 将吾 我妻 亜紀		
【栄養士】	吉川 雅代	【用務員】	大沼 伸
【校務助手】	幕田 美雪	【補助員】	三上 大輔
【学びのサポーター】	小平 治 阿波みどり 向井えい子		
【育児休暇】	花田 瑞希（教諭）	若林麻衣子（教諭）	
	勝谷ひなの（教諭）	加藤 葵（教諭）	

【転 出 同 人】

令和6年度

丸山 悠	加藤 美咲	前川 正大	佐々木美穂	渡部 厚	高橋 静香	小畑 曜子
杉浦恵利奈	狩野 量	仙北 明美	森下 美雪	中丸 修平	本間聖奈子	宿田 淳
木戸 優香	田中あやの	渡部みずき				

令和7年度

田中 義直	丹羽 洋彦	橋本萌々子	小島由紀子	道見佳奈枝	島田 周子	柿崎 健吾
青柳 大介	武田 若菜	大嶋 育美	川見 一弘	藤林 道治	佐藤 香代	下出千津留
長谷川優季	稲實 弘美	江川ひとみ	佐藤 亮輔	高本 泰子		